



みんなで育てる 未来のチカラ



これまでの様子

令和8年5月12日 「みんなで育てる 未来のチカラ」を開催！

学校関係者、PTA会員、民生児童委員、トワイライトスクール関係者、行政など多様な方と学び合いました

テーマ：コミュニティ・スクール、地域学校協働活動の基礎基本

名古屋市立の学校（園）で令和7年度より実施している、なごやコミュニティスクール（NCS）会議が、どんなものなのか、お話をいただきました。

「どのような子どもを育てていきたいか」を学校と地域が一緒になって考えていくことが大切であることをお話いただき、そのためには、みんなで熟議（対話）することが必要だということ、安城市や瀬戸市で実施しているコミュニティ・スクールの事例などから学びました。



瀬戸市教育委員会
CS統括コーディネーター
文部科学省総合教育政策局
CSマイスター
船坂 礼子様

グループでの対話の様子

アイスブレイクとして、自己紹介をしました。名前だけでなく、「今の気持ち」「今自分がやっていること」「みんなに伝えたいこと」などを紙に書いてグループで伝え合い、全体でも共有しました。

次に、「学校あるある・・・」というテーマで、「昔の学校あるある」「今の学校あるある」について、付箋に書いてグループで話し合い、全体でも共有しました。

船坂様の講義



付箋に書かれた内容の一部

【昔の学校あるある】

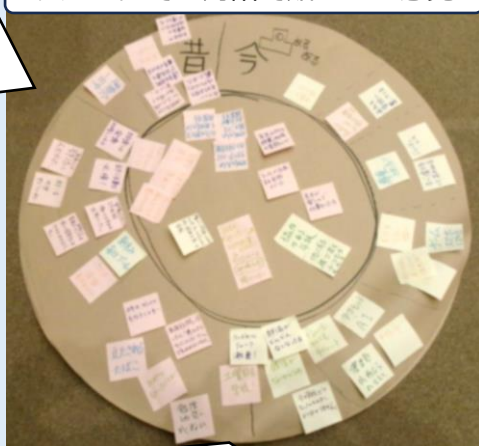
- ・土曜日にも授業があった
- ・学校も地域も、近所の人とのつながりが多かった
- ・給食に揚げパンやクジラの肉がでていた
- ・夏休みに毎日学校でプールに入れた

【今の学校あるある】

- ・トワイライトスクールがある
- ・1人1台タブレットがある ・先生が忙しい

その後、「未来の学校はようになる？どうなっている？」について、付箋に書いてグループで話し合い、全体でも共有しました。

グループでの対話で貼られた意見



付箋に書かれた内容の一部

【未来の学校はようになる？】

- ・卒業生が、母校に手伝いに来る
- ・地域の人が授業をしている
- ・いつでも地域の人が学校に
- ・地域の人が自由に入出入りできる
- ・学校と家庭と地域が協力
- ・AIが授業をする
- ・先生も保護者も気持ちに余裕増
- ・学校の一部が地域交流の場に
- ・担任に支援者（地域の人）
- ・子どもの困りごとを、地域の人で解決していく
- ・地域と学校が「WIN WIN」の関係に

研修会終了後には、グループで交流した方同士で、お互いの活動について伝え合ったり、連絡先を交換したりする様子が見られました。

当日の様子



アンケートでいただいた、みなさまからの声

- 子どもたちが「この地域でよかった」と思える取組を学校でも行いたいと感じた。
- 地域の方と子どもたちが話す機会をつくっていきたく強く感じた。
- 地域の困りごとや願い、児童の困りごとや願いについて意見交換する中で、何か取り組んでみたいという気持ちをもてるようにしたい。
- 対話を大切にしながら、学校をハブにして、地域を自分たちでよりよくしていけるんだという自己効力感を高める取組を少しずつやってみることが大切だと思いました。
- 家庭と学校と地域で連携をとっていくことが大事だと改めて思いました。何かできることをしたいと感じました。
- 今回もいろんな想いを聞くことができ、充実した時間を過ごせました。コミュニティ・スクールの「コーディネーター」に興味があります。
- 地域や学校のことをこうやって考える場を設けてくれたことに感謝です。